

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	佐賀市立北山東部小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で学校教育目標の共通理解を図り、その達成に向けて教育活動を推進することができた。また、児童も東部小3つのスローガン達成に向けて学習に取り組むことができたため、全項目で「十分達成」という成果が出た。 ・少人数授業の特性を生かした指導法の研究は、各学年の発達段階に応じてICT機器を活用しながら進めることができ、学力向上を図るとともに、児童の主体的な学びに繋げることができた。来年度は、児童が更に創意工夫をしながら主体的に学習に取り組むことができるよう指導法の工夫を継続していく。 ・人権学習の充実を図ったり地域行事と連携した教育を推進したりしたことで、児童の豊かな心を育むことができた。今後は、児童が更に自己肯定感を高め、夢や目標を持って様々な事に挑戦できるような学習環境を整備していきたい。 ・教職員が児童と向き合うための時間確保や年次休暇を取得しやすい環境づくりをするために、放課後の会議等の時間を必要最小限にしたり土日の行事に交代で参加したりした。来年度も小さなことから業務改善を積み重ね、持続可能な職場環境づくりを進めていきたい。 ・学校・保護者・地域が一体となり山村留学の短期留学を実施したりPR活動を進めたりしたことで、令和8年度は里親方式での留学生を迎えることができそうである。今後も地域、保護者、学校で持続可能な山村留学の取組として改善・充実を図るために議論を重ねていく。
2 学校教育目標	郷土を愛し、心豊かで心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成 ～進んで学習・心と体をきたえて何事にもチャレンジ・自分も友だちも大切に～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・【進んで学習】「なぜ」を大切に、自ら問い、学びを楽しむ児童の育成 ・【心と体をきたえて何事にもチャレンジ】失敗を糧に、あきらめず挑戦し続ける心の育成 ・【自分も友だちも大切に】個性を尊重し、納得解を創る集団の育成

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価				主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○少人数授業の特性を生かした学習指導法の工夫	○「少人数授業で、自分のめあてをもって進んで学習に取り組むことができた。」と回答した児童85%(15人中13名)以上	問いの「創出」と「継続」を促す授業実践に取り組む。 ・児童の主体的な学びにつなげるICT機器の効果的な活用を図る。							・学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分から「友だちのいいところやがんばっていることを見付けて、『ドラドラの木』に、ほめる言葉や感謝の言葉を書くことができた」と回答した児童85%(15人中13名)以上	・毎月1回の人権教室を計画し、担当を担任と級外で分担することで、充実を図る。 ・児童が互いの個性を尊重し、共に「納得」を創る人権・同和教育の推進を図る。 ・人権学習において「SOSの出し方教育」の実践を取り入れる。							・人権・同和教育学習担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「こまったことやいやなことはすぐに相談できている」と回答した児童85%(15人中13名)以上	・児童と担任との「おはなしタイム」を確保したり「心のアンケート」や「WEBQU」を活用したりして、児童が何でも話せる学級経営の充実を図る。 ・スクールカウンセラーを中心とした全員のカウンセリングと心の授業を行う等、教育相談体制の充実を図る。 ・いじめ防止基本方針を周知徹底し、迅速かつ組織的対応の徹底を図る。							・教育相談担当
	●◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれて、いると思う」と回答した児童85%(15人中13名)以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%(15人中13名)以上 ○佐賀や富士町が好きだと回答する児童85%(15人中13名)以上	・「出番」「役割」「承認」をキーワードにして、児童が自己決定できる環境づくりを行い、自己肯定感(有用感)を高め、主体性を伸ばす。 ・児童にマイゴール(夢や挑戦すること)決めさせ共有させることで、お互いに認め合い、高め合う集団づくりを行う。 ・児童の郷土を誇る気持ちを醸成するため、豊かな体験活動の充実を図る。							・特別活動担当
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%(15人中12名)以上	・児童に基本的な生活習慣の大切さを学ばせるとともに、自分の体力づくりに関心を持たせる。 ・児童が運動の楽しさを味わえるような体育科の授業づくりを行い、日頃の遊びの中で生かせるようにする。 ・児童が運動をしやすいう環境を整える(昼休みに体育館を開放する等)。							・体育主任 ・養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 ○時間外勤務が月平均30時間以内の職員が85%(8人中7人)以上 ○各種行事や運営のあり方、育友会活動との連携のあり方について見直しを行う。	・業務改善を推進し、会議や研修を計画的・効率的に実施する等、年次休暇を取得しやすい環境を整える。 ・「業務改善・働き方改革」のための議論の場を年間2回設定する。 ・地域行事(勤務時間外)への職員の参加等については、管理職から保護者・地域の方への理解を呼び掛ける。							・教頭 ・県費事務職員
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%(6人中5名)以上	・特別支援教育に関する研修会を年間2回実施する。 ・教育相談協議会や支援会議等を開催し、関係者間での情報共有を図る。							・特別支援教育コーディネーター
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価				主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特色ある学校作りの推進	○保護者・地域と協働した持続可能な取組としての山村留学の改善・充実	○「やまばと山村留学は、持続可能な取組として改善が進んでいる」と回答した保護者90%(15人中14名)以上	・年7回の山村留学実行委員会(地域、保護者、学校)で、山村留学のあり方について議論を重ね、家族留学制度の推進や里親の発掘等に取り組む、持続可能な取組となるように改善を推進する。 ・学校からの広報や連絡を幅広く行い、地域人材を確保し活用することで、教育活動の質を高める。							・教頭 ・教務主任

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
----------------	---